

# 令和7年度 第1回 やさしさの連鎖会議（会議録）

日 時：令和7年10月16日（木） 14:30～17:00

場 所：川崎市役所本庁舎 復元棟 303会議室

出席者：田中委員、中村委員、高木委員、岡本委員、丸子委員、成澤委員、ストウ委員、今村委員

傍聴者：なし

## <会議内容>

**開会** 事務局より開会挨拶と流れの確認

市民に障害の社会モデルや心のバリアフリーの理解を広げるという開催目的を改めて確認。その後、8か月の再開となったため各委員から近況報告を行い、委員同士で連携した取組や今年のイベントであるデフリンピック・大阪関西万博などに関わった話など挙げられた。

## アイデア出しワーク1

テーマ：やさしさがつながるショートストーリーをつくろう

※Aグループ、Bグループの2つに分かれてワークを実施

### 具体的にでたアイデア

Aグループ（中村委員、岡本委員、丸子委員、今村委員）

- 日常生活にやさしさをみつける：（例）朝お米が炊かれていた、扉を押さえてもらった
- やさしいけど面白い：（例）安心安全の観点から公園でボール禁止になる
- 自分のできないことが、誰かの役割を生む
- 一人で何でもできてしまうと、誰も手伝ってくれずにどんどん孤立する
- やさしさの源は誰かのやさしさで、それが循環してつながっている
- 自分に余裕がないとき、そもそも自分にやさしさは生まれない
- やさしさが感動と同じように多世代にわたって連鎖しりたい
- スマホを見てイヤホンをしているだけだと、やさしさに気づかない
- 困りごとに気づいた人同士で一緒に解決策を見つけていく：（例）当事者のリプレゼンテーション

Bグループ（田中委員、高木委員、成澤委員、ストウ委員）

- 想像力がキーワードで、ときにやさしさはすれ違ってしまう：（例）サウナで白杖を忘れ物として預けられた話
- 動画を活用してやさしさを伝える：（例）JR九州、TikTok
- 人の親切さにふれた：  
（例）車が止まって男性から傘を貸してもらった話、旅行先で迷っていた時に現地人に助けられた話、美術館で映像をみるときに前列がかがんでくれた話
- ありがとうは承認欲求が満たされ自己肯定感があがるから大事だと思う：（例）渋谷のありがとうステッカー
- ありがとうを探すと、ありがとうを見つけやすくなる
- やさしさはプラスレスなところがある

## アイデア出しワーク2

テーマ：やさしさの連鎖を広げるために考えよう

### 具体的にでたアイデア：

- パソコンのスクリーンセーバーを活用する
- 株式会社ヘラルボニーの取組ように既存のイメージを変える
- ありがとうステッカーのように他者への感謝を探し伝える取組を実施する
- X（旧Twitter）などでエピソードをショート動画として送る
- かわさきTEKTEKとコラボする
- やさしさという定性的なものを定量化するためにやさしいと思ったらボタンを押す
- ギネス記録を目指す：（例）手をつなぐ、ハイタッチ
- イベントよりも日頃のラーニングが大事である
- 渋谷区のお隣サンデーをモデルにイベントを企画する

## クロージング・挨拶 事務局

アイデアの断片やいろいろなキーワードをいただいたので、今後深掘り形にしていきたい。年度末までに2回目を実施する予定だが、報告や個別に相談するかもしれない。

## 閉会（謝礼）

以上